



Lidice。

6月10日の朝、リディセ犠牲者慰霊献花式に参列してきました。

リディセはチェコの小村で、1942年6月10日、この村は、ナチス幹部の暗殺事件の報復としてナチ治安部隊によって完全に破壊、成年男性は全員殺害、女性・子供は収容所送り、無人の土地は更地にされたそうです。

ハバナの小さな公園の一角で、(普段は気さくなテニス仲間の)チェコ大使の厳粛な主宰によって、慰霊碑に花を捧げました。1943年に建てられたという碑の前には、地元の当局者、一般市民、多くの国の外交官たちが集まりました。

告白すると、この事件のことは初めて知りました。第二次世界大戦とチェコといえば、ミュンヘン会議後のズデーテン地方併合、ヒトラーに銃をつきつけられ併合文書署名を余儀なくされるチェコ大統領の苦悩などは承知していましたが、不勉強でした。

こちらで周りの人々に訊くと、キューバには追悼の意味で「リディセ」と名付けられた女性が相当数おり、市民の多くの方は「リディセ」村の名を知っているとのこと。驚いてさらに調べると、中南米にはその名を冠する町や病院などの施設が多々あることもわかりました。

長年この地域の仕事をしながらの不明を恥じると共に、時代、地理、国籍、体制など、一切を越える大切なものがある、と思いました。

令和元年7月

駐キューバ日本国大使 藤村和広

